

harmony

— 岩手県立中部病院 地域連携便り VO1.30 —

— ごあいさつ —

統括副院長兼医療安全管理室長
兼第1外科長 中野 達也



早いものでもうすぐ2年経ちますが、2019年5月11日（土）に開院10周年記念祭を中部病院で開催いたしました。当日は天候にも恵まれ、多くの市民の方々にご参加いただきました。オープニングセレモニーでは新たに作成したイメージキャラクターの「えぐなるズ」のお披露目もあり、子供たちの人気になっていました。体験コーナーでは、介護食の試食や電動車椅子体験、菓の代わりにお菓子を分包する模擬調剤など、各部門が趣向を凝らしたブースに、家族連れや高齢の方まで多数の市民の方々が順番待ちの列を作ったの大盛況となりました。また、手術室や地下の免震装置を見ていただく院内見学ツアーも人気でした。このようなオープンホスピタルは当院初の試みで、最後は数え切れなくなりましたが、1,000人を超える市民の方々にご参加いただきました。

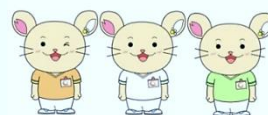
地域に開かれた病院をと、昨年もオープンホスピタルを開催する予定でしたが、1年前に新型コロナウイルスの感染拡大がはじまり、多くの行事や会議等と同様に感染対策のため開催を見送ることとなりました。

昨年11月以降、岩手県においても新型コロナウイルス感染症の患者さんが増えました。冬を迎えるにあたってこの状況下でさらにインフルエンザの患者が外来に押し寄せたら大変なことになるのではと心配しておりましたが、幸いこの冬はインフルエンザの感染者は極端に少ないようです。その理由はワクチン接種率の上昇だけでは説明できず、手洗いやマスクなどによる感染対策の効果と考えられます。そうであれば、新型コロナ感染症も抑えられてほしいところですが、コロナの道のりはまだ続きそうです。

間もなくワクチン接種が始まります。医療従事者からはじまり、続いて一般住民の高齢者からの接種となりますが、初めて使われるワクチンで対象者も多いため一大事業となります。地域で協力してワクチン接種をスムーズに進め、その効果によって新型コロナウイルス感染症が収束に向かうことを期待します。そして、オープンホスピタルや地域連携に関わる行事を制限なく再開できるようになる日が早くくることを祈っております。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

～～ 岩手県立中部病院 理念と基本方針 ～～

- | | |
|------|---|
| 理 念 | 心のかよう患者中心の医療を実践し、地域社会に貢献する。 |
| 基本方針 | 1. 安全で質の高い医療を提供する。
2. 医療・保健・福祉施設、行政との協働を推進する。
3. 人間性豊かな医療人を育成する。
4. 明るく働き甲斐のある職場をつくる。
5. 健全な病院経営に努める。 |



脳梗塞に対する急性期治療は革新的な進歩を遂げております。本邦においては2005年から経静脈的血栓溶解療法が認可され、現在は発症（または未発症確認時から）4.5時間以内の急性期脳梗塞例において禁忌事項がなければ本治療が可能となっております。しかし、本治療は血栓を溶かすという治療の性質上、血栓量の多い脳主幹動脈閉塞例では効果が乏しく、再開通率は内頸動脈閉塞で6%、中大脳動脈や脳底動脈閉塞においては30%程度と低く、重症な脳梗塞に対しては本治療の限界がありました。これに対し、2015年に発症6-12時間以内の脳主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法（図1）は60-80%の再開通率と50%以上の患者さんを自立した生活を送れるまでに転帰を改善できるという結果が欧米からの5つの多施設共同無作為研究から発表され、急性期脳主幹動脈閉塞治療におけるパラダイムシフトが起きました。この発表から遅れること2017年9月には本邦でも急性期脳主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法が最も勧められる治療になっております（グレードA、脳卒中治療ガイドライン2015 追補2017）。現在のところ岩手県における本治療は、当院以外では中央病院と岩手医大（平日日中のみ）、大船渡病院などでしか行われておらず、中部・胆江地区においては殆どが中部病院で行っています。脳神経細胞死が起こるまでの時間的猶予は閉塞血管部位や側副血行により個人差はありますが、なるべく早期に閉塞血管を再開通することで患者さんの転帰は改善します。当院では急性期主幹動脈閉塞が疑われる

図2

場合には脳外科医が24時間最初から対応しております

（図2）。発症から6時間の経っていない脳卒中を疑う患者さんがいらっしゃいましたら、画像診断は不要ですのですぐに当院へ相談いただけますと幸いです。

脳卒中患者受け入れのお願い

- ・発症から4.5時間以内の血栓溶解療法
- ・発症から6時間以内の血栓回収療法により症状を改善させられます

最終未発症時刻から6時間以内の

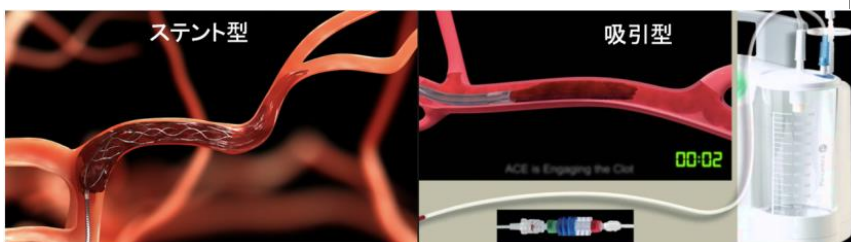
- (1)共同偏視
- (2)片麻痺かつ従命動作できない

上記のどちらか認める時

→脳外科が血栓回収前提に対応します

参考
Cincinnati Prehospital Stroke Severity Scale, Katz et al. Stroke 2015
(前方循環主幹動脈閉塞の89%は上記1) or 2)の症状が起こります)

図1



ステントで血栓を絡め取る

吸引機で血栓を吸い取る

2018.4.16 中部病院 脳神経外科

病院・診療所の薬剤師と保険薬局の薬剤師が情報共有し、患者さんに安全で継続した薬物療法を提供するために連携の強化を図っています。その一環として2020年8月28日(金)中部病院の講堂を会場に北上薬剤師会主催で病薬連携の研修会を開催致しました。

2019年度より、がん、緩和領域に関して定期的な研修会を行っていましたが、今回、NST領域での研修会としては初めての開催でしたので、基礎的な部分からということで「在宅業務に役立つ栄養評価と栄養に関する基礎知識」と題して、ファースト調剤薬局の伊藤貴文先生より「在宅業務の現状と展望」について、また中部病院薬剤科齋藤主任薬剤師より、「当院のNST活動と栄養に関連した基礎知識」と題してNST活動時の提案事例や、在宅でも簡便に測定可能な栄養評価方法についての講演となりました。

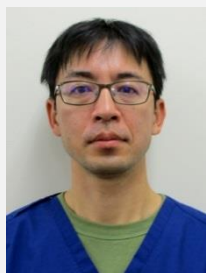
研修会当日は、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症に気を付けながらの開催となりましたが、多くの方々にご参加頂きました。研修会後は意見交換の場が設けられ、充実した会となりました。

今後も、定期的に研修会を開催し、地域の薬剤師及び他職種と連携を強化していきたいと考えています。



新任医師紹介

※令和3年1月に着任した医師をご紹介します。



氏名	内藤 健夫（ないとう たけお）
診療科・職名	消化器内科・医長
学会資格等	総合内科専門医、消化器病専門医
ひとこと	北上の医療に貢献できるように頑張ります。 よろしくお願いします。



氏名	小島 大吾（こじま だいご）
診療科・職名	脳神経外科・医長
学会資格等	脳神経外科専門医
ひとこと	宜しくお願いします。

最新医療機器導入のご案内

Computed Tomography コンピューター断層撮影装置
フィリップス社製マルチスライス CT "6000 iCT"



より優しく、

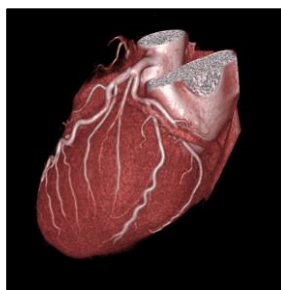
より高精細に

●X線CT装置は、短い時間で体内の断面情報を得る検査装置です。検査結果として骨の情報のもとより、頭部、腹部、血管など様々な領域を断層像として表示します。
この度、本院が導入しましたフィリップス社製マルチスライスCT "6000 iCT"は、先進の128スライス検出器を搭載し、1回転0.27秒という世界最速のスピードで検査を行います。従来のX線CT装置に比べ、全身領域において10秒以下という短い息止め時間で画像をご提供いたします。また、従来X線CT装置では検査時の息止め時間が非常に長く、患者様の大きな負担となっていた心臓CT検査も5秒程の息止め時間で可能となりました。
これにより、冠動脈疾患に対する新たなアプローチとして、CTによる心臓検査をより正確に、そして多種にわたる目的で可能となります。

検査の画像例



腹部血管 3次元画像



心臓血管 3次元画像



胸腹部横断像

地域医療福祉連携室からのお願い ◇当院は予約制です◇

基本的に外来診療は予約制とさせていただきます。

患者さんが予約なしに紹介状をお持ちいただいた場合、長時間お待たせしたり、外来の状況によっては予約を取り直して後日来院いただくことがあります。

お手数をおかけしますが、緊急の方以外はFAXで事前予約のお申込をいただくよう、ご協力をお願いいたします。

なお、当日の患者紹介の際は、紹介先の診療科医師に電話にてご一報いただけますと、よりスムーズに患者さんを受け入れることができますので、ご協力をお願いいたします。



発行：岩手県立中部病院
地域医療福祉連携室

〒024-8507
岩手県北上市村崎野 17 地割 10 番地
TEL 0197-71-1511 (代表)
0197-71-1518 (連携室直通)
FAX 0197-71-1881 (連携室専用)
URL <http://www.chubu-hp.com/>



2021年3月